

臺灣鐵器文化精髓。十三行遺址和十三行人



# 台湾鐵器文化の粋

新北市十三行遺跡と人びと

2017 10.7<sup>土</sup> SAT ▶ 12.3<sup>日</sup> SUN 入館無料

**関連講演** 「台湾十三行遺跡 鉄・ガラス、そして交流」  
(日時)2017年10月28日(土) 13:30~16:00 (場所)西都原考古博物館 1F ホール (講師)臧振華氏 (台湾 中央研究院院士)

**関連講座** 「台湾と南九州の鉄とガラス」  
(日時)2017年11月18日(土) 13:30~15:00 (場所)西都原考古博物館 1F ホール (講師)村上恭通氏 (愛媛大学教授)

主催：宮崎県立西都原考古博物館 共催：台湾新北市立十三行博物館

宮崎県立西都原考古博物館  
Saitobaru Archaeological Museum of Miyazaki Prefecture

〒881-0005 宮崎県西都市大字三宅5670番  
TEL.0983-41-0041 FAX.0983-41-0051  
<http://saito-muse.pref.miyazaki.jp>

開館時間：10:00~18:00(展示室入室は17:30まで)  
休館日：月曜日(国民の祝日と重なる時は翌日)  
国民の祝日の翌日(休日に当たる時を除く)  
※11月4日・24日は同館

宮崎県では、記紀編さん1300年記念事業の一環として、ユネスコ無形文化遺産に向けて「宮崎の神楽」、世界文化遺産に向けて「南九州の古墳文化」を発信しています。



# 台湾鉄器文化の粋粋 新北市 十三行遺跡と人びと

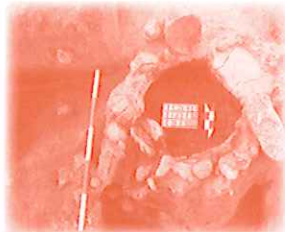
東アジアと東南アジア、南太平洋地域との接点として、古来重要な位置を占めてきた台湾。その台湾鉄器時代(約2000年前～400年前)の代表的な遺跡である十三行遺跡シーサンハン(新北市)を取り上げ、様々な鉄製品、金・ガラス製の装身具、装飾性に富んだ土器など、その優れた文化を紹介します。また、広域交流の中から高い生産技術を身につけ、華やかな精神文化を开花させた十三行の人びとにもスポットをあてます。

## 十三行遺跡の発見と保存への道のり

一人の空軍パイロットによって発見された十三行遺跡。そのきっかけは、台湾先史時代の人々が遺跡に残した「鉄」でした。その後、十三行遺跡は破壊の危機に直面しますが、緊急発掘調査が行われ、考古学者達による遺跡保存への訴えと、民衆の反響を呼び起こし、遺跡の一部が残されることになりました。



遺跡から出土した大量の鉄くず



遺跡で発見された鉄をつくった遺構



十三行人の生活風景(復元図)

## 十三行人の暮らし

新北市八里に所在する十三行遺跡は、台湾北部の鉄器時代を代表する遺跡です。そのため、台湾北部の鉄器時代遺跡にみられる文化的なまとまりは、十三行文化と呼ばれています。遺跡からは、十三行の人びとが居住した家屋の跡や墓だけでなく、当時の生活に伴う多様な資料が出土しており、彼らの高い技術と豊かな精神文化を垣間見ることができます。



スタンプ文様のある土器



土器に入れて副葬された装飾品等



人を象った土製品

## 海を越えた交流の証

台湾は海に囲まれ、その先には、中国大陸、インドシナ半島、東南アジアの大陸部や島々があります。そうした環境の中、十三行人は、台湾北西部の海岸線沿いで生活しており、彼らの生活には海や川が大きく関与していました。出土品には、金・銀・青銅製品やガラス製の装身具があり、人びとが地域を越えた交流によって、様々な品々を手に入っていたことがわかります。



青銅製のナイフの柄



ガラス製のブレスレット



メノウ製のネックレス

[提供] 写真：中央研究院歴史語言研究所 復元図：新北市立十三行博物館

次回展示会情報

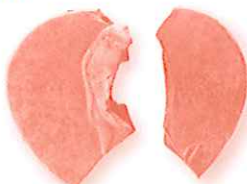
### 企画展Ⅱ

2018(平成30)年  
1月13日(土)～3月18日(日)

## とよ ひむか ひびつ 豊と日向 ～日出る国の考古学～

(大分県立埋蔵文化財センターとの合同企画展)

現在、東九州という枠組みで括られる宮崎県と大分県ですが、歴史を振り返ると互いに影響を受けながらも、異なる文化を形成していた様相が見えてきます。今回の展示では、「豊」と「日向」について各時代の特色を紹介します。



土製聖人像  
(宮崎県埋蔵文化財センター所蔵)

